

# 平成 22 年度 静岡市食の安全・安心意見交換会

## 「静岡市 食の安全・安心アクションプラン平成 21 年度～平成 23 年度」

### 平成 21 年度の実施状況、および今後の方向性について

- |                      |             |
|----------------------|-------------|
| 1. プログラム             | …………… 2 ページ |
| 2. 平成 22 年度意見交換会委員名簿 | …………… 3 ページ |
| 3. 今回の意見交換会のポイント     | …………… 4 ページ |
| 4. 意見交換会委員への調査票      | …………… 5 ページ |

別添資料

「静岡市食の安全・安心アクションプラン平成 21 年度～平成 23 年度」  
平成 21 年度の実施状況

## 平成 22 年度 食の安全・安心意見交換会プログラム

日時 : 平成 22 年 9 月 7 日 (火)

会場 : 静岡市城東保健福祉エリア 保健福祉複合棟 3 階 第 1 研修室

開始時刻	時間	項 目	内 容	進 行 等
13:30	15分	受 付	傍聴者の受付	事務局
13:45	15分	委 嘱	各委員への委嘱と顔合わせ	保健衛生部長
14:00	10分	開 会	開 会	事務局
			あいさつ	保健衛生部長
	5 分	12人の委員を紹介する。 座長の選任（座長の指名）		部長、事務局 （座長）
14:15	45分	意見交換 「静岡市食の安全・安心アクションプラン 平成 21 年度～平成 23 年度」 平成 21 年度の取り組み状況と今後の方向性 について		説明：事務局  意見：委員  （座長）
15:00	10分	休 憩		
15:10	45分	意見交換 「静岡市食の安全・安心アクションプラン 平成 21 年度～平成 23 年度」 平成 21 年度の取り組み状況と今後の方向性 について		意見：委員  （座長）
15:55	5 分	お知らせ等		事務局
16:00		閉 会		

## 平成 22 年度静岡市食の安全・安心意見交換会委員

No.	名前（敬称略）	所属及び役職
1	ふしみ よしお 伏見 良雄	しずおか市消費者協会会長
2	こすげ よりこ 小菅 ヨリ子	静岡市食生活改善推進協議会会長
3	みみづか ひさひろ 耳塚 久広	生活協同組合コープしずおか 組合員活動部
4	うんの ふ み こ 海野 フミ子	静岡市農業協同組合理事
5	おおつか まさみ 大塚 晶美	静岡県農山漁村ときめき女性
6	さいとう まさかず 斉藤 政和	清水漁業協同組合理事
7	ふかざわ としじ 深沢 利司	ヤヨイ食品株式会社 品質管理部 清水工場分室長
8	いちかわ ようこ 市川 陽子	静岡県立大学 食品栄養科学部 准教授
9	み わ のりなが 三輪 憲永	東海大学短期大学部 食物栄養学科 教授
10	うんの としや 海野 俊也	株式会社静岡新聞社 編集局 経済部 部長
11	おかざき ゆ み 岡崎 有美	平成 20 年度公募委員（今プラン策定に参加）
12	あおやま ようこ 青山 葉子	平成 20 年度公募委員（今プラン策定に参加）

# 1. 今回の意見交換会のポイント

「静岡市食の安全・安心アクションプラン」は、静岡市が「食の安全の確保」と「食の安心の提供」のために取り組む事業をまとめて市民の皆様を示した行動計画です。

平成15年5月に公布された食品安全基本法に基づき、庁内の関係部署が連携するとともに、国、県等の機関との協力、さらに消費者や生産者・食品事業者との協働によって各事業が実施されます。

3年間の行動計画として平成20年度に策定した「静岡市食の安全・安心アクションプラン平成21年度～平成23年度」の計画期間も1年が過ぎました。

そこで、これまでの取り組み状況を総括し、意見交換会委員の方々からのパブリックコメントを参考に、今後の取り組みに修正や新たな提案を加えていくことで、アクションプランのよりよい進行管理を目指したいと思います。

## 2. 意見交換会委員への調査票

### ◆◇伏見 良雄 委員

（しずおか市消費者協会として）平成22年10月8日、9日、10日開催「消費生活展」について食品表示を主体とした食の安全・安心について一般市民に広く発信していく。

アクションプランの経過報告については特にコメントなし。

### ◆◇小菅 ヨリ子 委員

平成21年度取り組み状況報告のなかで、

- ①「エコファーマーの推進」が平成20年度の実績が500人でしたが、21年度は334人で、コメントに“事業制度上の問題や近年の経営環境により大幅に減少”とありますがこれはどういうことなのでしょうか？  
今後ますますエコファーマーへの期待が高まって来ると思われますが、逆行しているように思われます。
- ②「トレーサビリティシステムの導入、推進」が報告書のなかで抜け落ちています。これは十分普及しているのに21度の施策からはずしたのでしょうか？現段階での導入状況をお知らせください。
- ③「鶏卵、蜂蜜の収去検査」が14件とありますが、先ごろアメリカで出荷した卵がサルモネラ菌に汚染され食中毒の原因となった疑いがあるとして、3億8000万個が回収されることになった。と報道にありましたが、サルモネラ菌の対策はどのような方法があるのでしょうか？

## ◆◇耳塚 久広 委員

- ① 静岡市食の安全対策推進事業の1～5のうち「4. 食の安全・安心はみんなで作る」(P. 3)については、アクションプラン(行動計画)というよりも、理念・目的に関する内容説明ですので、順位として、理念・目的の次にアクションプラン(行動計画)というのが一般的な流れだと感じましたがいかがでしょうか(ただし「はじめに」で久朗津会長が説明しているから、特段挿入しなくてもいいのかもしれませんが)。
- ② 食の安全・安心に関わって、最も基本的かつ最重要課題である食品衛生をはじめ、トレーサビリティやリスクコミュニケーションなど今日的な課題も含めて、部局を横断した取り組みは非常に有意義だと思います。また様々な検査体制強化も共感・支持できます。
- ③ 上記2に加えて、食の安全・安心に関わっての今日的課題として「持続可能な生産」があると思います。まず国内においては、第1次産業従事者の高齢化や農地の維持など、日本の基本産業そのものの存続にかかわる問題です。日本(静岡県)の第1次産業を守る視点で、地産地消の取り組みはとても重要だと思います。ただし、①戦後、第2次、第3次産業へ生産人口をシフトさせることで経済発展したこと、②それにとまなう貿易摩擦の解消の手段として輸入農産物自由化がなされてきたと考えられること、③また今日長引く不況の中で、購買動向として低価格商品へシフトしていることから、限界性もあり、ひと筋縄ではいかない課題(政治的・国策的課題)かと感じています。
- ④ 3.「持続可能な生産」について、グローバルな視点では「フェアトレード」が注目されています。欧州ではきちんと差別化され、ステータスを確立しているようですが、日本はまだ始まったばかりです。バナナやコーヒー、チョコレート(カカオ)など、国内では採れない農産物等について、その生産国(の人々)において持続可能な生産ができるように、行政としても「フェアトレード」を奨励し、安全で確かな輸入農産物を供給促進することで、市民に対する食の安全・安心に貢献できるのではないかと思います。
- ⑤ 4.「持続可能な生産(環境)」を担保するために、グローバルコンパクト(GC)に参加する企業・団体も欧米を中心に広がっています。日本でも、川崎市が参加・支持し、川崎コンパクトという規範をまとめています。直接的に

は、行政における、人権侵害や腐敗を排除する目的ですが、G Cに参加し、静岡市内における食品・農産物の生産・流通過程で、そこで働く労働者の人権が侵害されていないこと（人権が守られていること）を保障することによって、食品の事故や偽装を未然に防ぐことも、食の安全・安心を担保するための一定有効な手段かと考えられます。

#### ◆◇大塚 晶美 委員

まず冊子を見て思いましたこと

- 健康を推進するための事業の冊子に、この表紙の写真は少し問題があるように考えますが…
- 20年度のもの比べて、図表、写真、簡潔な文章からとても見やすいものになっていると思いますが、どういう方々を対象に配布するのですか？

「エコファーマーの推進」(P10) について質問です。

農業生産者が各自、環境にやさしい農業を心掛けてはいてもエコファーマーの認定を取得することを特にメリットと感じていない農家が多いのではないのでしょうか。

実際、推進をどこに向かって発信しているのですか？（あまり聞くことがないので）

また、認定者の取得後の継続のための資格の確認はどうなっているのでしょうか。

#### ◆◇深沢 利司 委員

- 環境保険研究所様の昨年度実績で残留農薬等の検査項目を増やすための検討とありますが現在は何種類の農薬分析が出来て、今後はどの程度まで増やす計画なのか教えていただきたい。
- 食品衛生課様で食品表示モニターの委嘱とありますが、食品表示モニターはどのような方に委嘱されていて、その方たちの活動内容を教えていただきたい。

## ◆◇海野 俊也 委員

各事業に対する意見について（平成21年度取り組み状況報告一覧を読んで）

- ① エコファーマーの大幅減少について
  - 事業制度上の問題とは何か。環境に配慮した農業に取り組むために経営環境が悪化しているのか？
- ② HACCP 希望者の相談受け付けについて
  - 市内ではどんな企業に認定希望者がいるのか。大手流通への納入業者ということか？22年度は倍増を指標としているが、どんな助言をしているのか。
- ③ 給食室巡回、指導について
  - 22年度は回数を10回減らし、対象も124施設から96園（施設と園の違いは？）と縮小している訳は。
- ④ 衛生講習会の開催について
  - 22年度は回数、対象ともに縮小している理由は
- ⑤ 図書館における「食の安全」資料収集、映像、図書雑誌購入について
  - こうした資料をどのような利用者がどのくらい借り入れているか調査しているのか。毎年購入し続けているのだろうが、「食の安全」に新しい資料が毎年毎年、必要なのか。
- ⑥ 地産地消を学ぶ講座の開催について
  - 地産地消の大切さは、マスコミなどほかの手段でも消費者に十分に伝わっているのでは。単なる料理教室ならば、必要なのか。むしろこうした事業を行っている民業を圧迫しているのでは。
- ⑦ 農業体験教育事業
  - 家庭菜園など日曜農業を楽しみたい層が拡大している。子供対象よりも、実践的な講座を大人対象に開いてはどうか。食の安全に対して認識が何より深まり、遊休地の緑化にもつながる
- ⑧ 22年度新規事業がないのはなぜ？
  - 3年計画だから？たとえば猛暑などを受け、機動的なプランを取り入れないのか。



## ◆◇岡崎 有美 委員

以前に比べるとパンフレットが大変わかりやすくなりました。

6, 7 ページ担当部署に連絡先などを併記してもらうか、後ろの問い合わせ一覧とリンクするなどの工夫をしてもらおうと一般市民にはよりわかりやすくなると思います。

子供向けのパンフレットなど簡易版を作成してもらい気軽に読めるものをたくさん配布するとより身近なものになるのではないかと思います。

## ◆◇青山 葉子 委員

- 学校給食で用いられる食材の地産地象の割合はどのくらいなのですか?事業の取り組みによって使用は増えているのですか?
- 食の安全・安心を築く中で食べものを無駄にしないことも大切だが、学校給食に置いて廃棄される量は減少しているのか、減らすための取り組みはあるのか教えてください。
- プラン I-3 (2) (3) (4) 流通段階における健康食品やおもちゃの買い上げ検査の抽出基準はありますか? また、市民からの苦情も 102 件ありましたが、これに基づいて検査することもあるのですか? 公表はしていますか?
- 「食育推進マップ」とはどのようなものですか? また、食育応援団とは、NPO、個人、どのような団体なのですか? 応援団の活動に行政はどのくらい指導、介入していく考えなのですか?
- 今まで取り組んできた中での行政側の手ごたえ、問題点、改善点があれば伺いたいと思いました。

## ◆◇市川 陽子 委員

全体的に、取組み状況報告に記載された事業名、実績および指標とコメントだけでは判断しかねる部分が多く、

これを読んだだけでは意見も質問も難しいが、気付いた点のみ挙げさせていただきます。

### I 食の安全の確保のための施策

- I-2 (1) の事業名、「HACCP 希望者及び予定者」の意味がわからない。

自施設への HACCP 導入を

検討している者という意味でよいのか。(誰にでもわかる表現にしてほしい)

- I-2 (3) の事業名、上から 2 番目～6 番目については、担当部署が「保育課」になっているが、すべて保育所給食に関する事業と考えてよいのか。

### II 食の安全に関する教育・啓発を推進

- II-4 では、地産地消と「食の安心・安全」の位置づけが不明瞭。例えば「ふるさと給食週間」では、メニュー提供と食の安全教育をどのように結びつけて行った、また行う予定なのか。

- II-5 (1) では、食の安全への関心を深めることが目標であるにもかかわらず、実施例の中には

マナーや栄養バランス等の内容がみられる。食の安全に関する教育も食育の一つではあるが、

他の項目と混在する事業になると、目的に対する評価が困難なのでは。

- 同様の活動が II-5 (2) にもみられる。

## ◆◇三輪 憲永 委員

「静岡市食の安全・安心アクションプラン平成 21 年度～平成 23 年度」では、

「I-2 (2) 危害分析に基づき、重点監視指導をします」の項で、取組み事項として、「卸売市場品質管理高度化マニュアル作成」があげられている。予定では平成 21 年度にマニュアルを作成し、平成 22 年度からマニュアルに基づき実施することになっているが、取組み状況報告書に記載がない。現状はどのようなになっているのか教えてほしい。